

子育てアドバイス

「どうして?」と うまく付き合うには

その子どもによって、多少の年齢差はありますが誰もが一時期相手にしているのも大変な時があります。たとえば「あれなー」と見るもの次々に聞いてくる物に興味を示す年齢の時は、まだまだ口もうまくまわらないくらいから始まり、物の名前を何度も言わされるものです。それから、成長とともに疑問の内容も変化、複雑に変わっていきます。「どうして、雲がお空にあるの。」「どうして、犬はワンワンなくの。」「どうして、雨が降るの。」などすんなり答えられるものはいいのですが、調べたりしないと答えられないこともあります。でも、うやむやにしたいくないと思っても、その時の状況によってなんとなく答えないで終わってしまうこともあります。でも、極

力答えてあげて子どもの好奇心、探究心を自然な状態で伸ばしてあげたいですね。さて、どう付き合っていくといいのでしょうか。

子ども達は、好奇心のかなりです。新しい物や新しいことを発見する天才です。「不思議発見!」のたびに、どうしてなの?なぜなの?の連続なのです。

でも、「これなー」と言葉にして聞くより早く、手でふれたり、なめてみたりします。親が目を離せない、いたずら好きの子ども達なのです。

ときに親の大切なものを壊したり、破いたりして、しかられますが、何回しかられても繰り返す、こりない子どももいます。「なぜ?」と聞かずに直接自分で確かめてしまう子どものほうが多いかもしれません。

その一方で、親の言うこと、禁止や制限は比較的良好受けとる聞きわけの良い

子ども達がいいます。遊びも絵本を読んだり、積み木やブロックを組み立てたり、折り紙を折ったりしている子ども達です。

マイペースで一人遊びができるので、忙しいときは放っておかれる事も多く、親に遊んでほしいとき、相手をしてもらいたいときには、「どうして?」「なぜなの?」と、言葉で働きかけてくる事がよくあります。

3〜4歳になると、おしゃべりもじょうずになり、大人のまねをして複雑な表現を口走ったりする時期です。子どもの知的な成長を大人が喜ぶのを、子ども達はよく知っています。「ど

うしてなの?」と因果関係やメカニズムを聞いたりすると、大人はやすやすと乗ってくるのです。

親が忙しくしているとき、「僕と遊んでよ。」と頼んでも、成功する可能性はほとんどありません。まして下に1歳児ぐらいの兄弟がい

たりしたら最悪、怖いもの知らずのベビーギャングを相手にしている親をひきつけるのは知的な疑問をぶつけることなのです。知的な疑問を投げかけてくる子ども達もしつかりとした説明を聞きたいわけではなく、少しでも長くお母さんの関心

が自分のほうへ向けて欲しいのです。忙しい子育ての時期、ただ「お母さん、こつちをむいて。」と言つても向いてくれそうもないお母さんを少しでもふりむかせるために、知的な関心が向くような問いを考

えるのでしよう。難しいそうなることを聞けば、長いことお母さんの意識をくぎづけにできるからです。子どもの感覚からすると「これはりんごなの?」も

「どうして、ぺんぎんは空を飛ばないの?」などと質問は色々なのですが、みんな同じパターンなのです。聞かれた大人には大差のある質問ですが、子どもにとっては、「鉄砲も数打てばあたる」という感じなの

かもしれません。親は、子どもの質問に、正しい知識を伝えなければならぬという教育的使命感を強くもっています。間違つて教えてはいけない、間違つて覚えたら大変などと

気分つてしまうのですが、子どもは親に相手をしてほしいのです。子どもの質問をそのまま子どもに返してみると、まったく違った発想で楽しいお話が始まっていきます。おもちゃを使つたこつこ遊びとはひと味ちがった、知恵と想像力を使った遊びでなぞなぞあそびのような気持ちで楽しむと「なぜなぜ」の質問を親子の会話のキャチボールで楽しましよう。



子育て支援センター

TEL 52-23315